



MFX-C2860/C2260/C2260K

ユーザーズガイド

拡張機能編

もくじ

1	拡張機能について	
2	ライセンスキットを登録する	
2.1	ライセンス登録について	2-2
2.2	インターネット経由で自動的にライセンスを登録する	2-3
2.3	手作業でライセンスを登録する	2-4
2.4	USB メモリーを使ってライセンスを登録する	2-6
3	Web ブラウザー機能を使う	
3.1	Web ブラウザー機能について	3-2
	Web ブラウザー機能でできること	3-2
	Web ブラウザーの仕様	3-2
	免責	3-3
3.2	Web ブラウザー機能を有効にする (管理者向け)	3-4
	Web ブラウザー機能を有効にする	3-4
	ライセンス情報を取得する	3-4
3.3	基本的な使い方	3-5
3.3.1	Web ブラウザーを起動する	3-5
3.3.2	Web ブラウザーの構成	3-6
	画面構成	3-6
	ツールバーの内容	3-6
3.3.3	Web ページを表示する	3-7
	URL を指定して表示する	3-7
	閲覧履歴から表示する	3-7
	ブックマークを表示する	3-8
3.3.4	表示中のページを操作する	3-9
	ブックマークを追加する (管理者向け)	3-9
	表示中のページを印刷する	3-9
	ページの表示方法を変更する	3-10
	ウィンドウを操作する	3-11
	コンテンツの再生音を調節する	3-11
3.3.5	Web 上のファイルを活用する	3-12
	Web 上のファイルを印刷する	3-12
	Web 上のファイルを表示する	3-13
	Web 上のファイルをボックスに保存する	3-13
3.3.6	本機からファイルをアップロードする	3-14
	お使いになる前に	3-14
	原稿データを読み込んでアップロードする	3-14
	ボックス内のファイルをアップロードする	3-15
3.3.7	使用環境を設定する	3-15
3.3.8	履歴情報を削除する	3-17
3.3.9	Web ブラウザーを再起動する	3-17
3.3.10	Web ブラウザーの情報を表示する	3-17
3.4	Web Connection を使う	3-18
3.4.1	Web Connection を使ってできること	3-18
3.4.2	Web Connection を表示する	3-18
	アクセスのしかた	3-18
	Web Connection の画面構成	3-18
	ログインとログアウト	3-18
3.4.3	ネットワーク上の複合機のボックスを利用する	3-19
	ボックスを開く	3-19
	ボックス内のファイルを印刷する	3-19
	ボックス内のファイルを削除する	3-19



3.5	My Panel Manager と連携する.....	3-20
3.6	Web ブラウザーの使用を制限する.....	3-21
	Web ブラウザーでのファイル操作を制限する.....	3-21
	ユーザーごとに Web ブラウザーの使用を制限する.....	3-21
	ローカルコンテンツの利用を禁止する.....	3-21
4	音声ガイドを使う	
4.1	音声ガイドについて.....	4-2
4.2	お使いになるために必要な作業（管理者向け）.....	4-3
	音声ガイドを有効化する.....	4-3
	登録キーに音声ガイドを割り当てる.....	4-3
4.3	音声ガイドの音量と再生速度を変更する.....	4-4
4.4	音声ガイドの使い方.....	4-5
	音声ガイドを開始する.....	4-5
	操作のしかた.....	4-6
	音声ガイドを終了する.....	4-6
4.5	ファクス宛先を音声で読上げる.....	4-7
5	PDF 処理機能を使う	
5.1	PDF 処理機能について.....	5-2
5.2	PDF ファイルをデジタル証明書で暗号化する.....	5-3
5.3	PDF ファイルのプロパティを設定する.....	5-4
5.4	PDF/A に準拠した PDF を作成する.....	5-5
5.5	PDF の Web 表示を最適化する.....	5-6
6	サーチャブル PDF 機能を使う	
6.1	サーチャブル PDF 機能について.....	6-2
6.2	サーチャブル PDF を作成する.....	6-3
6.3	テキスト検索可能な OOXML ファイルを作成する.....	6-4
6.4	OCR 処理の設定をする.....	6-6
7	My Panel Manager を使う	
7.1	My Panel Manager でできること.....	7-2
7.2	My パネルを使う.....	7-3
7.2.1	My パネルでできること.....	7-3
7.2.2	My パネルの使い方.....	7-3
	トップメニューを表示する.....	7-3
	My パネル使用時に注意すること.....	7-3
7.2.3	パネルの使用環境をカスタマイズする.....	7-4
7.2.4	各モードの画面をカスタマイズする.....	7-4
	コピーモードのトップ画面の表示を変更する.....	7-4
	コピーモードの機能キーを変更する.....	7-4
	ファクス/スキャンモードのトップ画面の表示を変更する.....	7-5
	ファクス/スキャンモードの機能キーを変更する.....	7-5
	ボックスモードのトップ画面の表示を変更する.....	7-5
7.2.5	トップメニューをカスタマイズする.....	7-6
	よく使う機能をトップメニューに配置する.....	7-6
	My パネルを使うときの初期画面を変更する.....	7-7
7.3	My アドレスを使う.....	7-8
7.3.1	My アドレスについて.....	7-8
	My アドレスでできること.....	7-8
	アドレスの分類.....	7-8
7.3.2	My アドレスの使い方.....	7-8
7.3.3	My アドレスを登録する.....	7-9
	短縮宛先（個人）を登録する.....	7-9
	グループ宛先を登録する.....	7-9



共有アドレスから My アドレスへコピーする	7-9
My アドレスから共有アドレスへコピーする	7-10



拡張機能について

1 拡張機能について

多機能な本機をさらに充実させる、さまざまな拡張機能を用意しています。音声による操作補助や、タッチパネルでの Web ブラウジング、PDF のオプションを追加する機能などがあります。

拡張機能には、標準で利用できる機能と、オプションのライセンスキットを登録することで利用できる機能があります。利用できる拡張機能の種類は、以下のとおりです。

機能	概要	必要なオプション
Web ブラウザー	本機のタッチパネルで、Web ブラウザーを使えます。 ネットワークに接続された本機から、インターネットや社内ネットワーク上のコンテンツにアクセスして、ページの表示やファイルの印刷などができます。 また、ネットワークに接続された他の複合機にアクセスして、Web Connection 経由で他の複合機のボックスを利用できます。 Web ブラウザー機能について詳しくは、3-2 ページをごらんください。	なし
音声ガイド	音声ガイドは、おもに画面やキーの説明、キーに関連する動作の説明が音声で流れ、操作の補助や誤操作の抑止に役立ちます。 画面表示が見にくい方でも、音声によるガイドで操作をフォローします。 拡大表示画面、ガイド画面、ユニバーサル設定画面、宛先指定画面のいずれかの画面で利用できます。 音声ガイド機能について詳しくは、4-2 ページをごらんください。	拡張メモリー i-Option3 (音声ガイド) ローカル接続キット
PDF 処理	PDF 形式でファイルを送信するときに、ユーザーのデジタル証明書を使った PDF の暗号化や、ファイルプロパティの追加、PDF/A に準拠した PDF の作成、PDF の Web 表示の最適化などができます。 PDF 処理機能について詳しくは、5-2 ページをごらんください。	拡張メモリー i-Option2 (PDF 高度暗号化) または i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ)
暗号化 PDF (デジタル ID)	PDF 形式でファイルを送信するときに、ユーザーのデジタル証明書を使った PDF の暗号化ができます。 暗号化 PDF (デジタル ID) 機能について詳しくは、5-3 ページをごらんください。	拡張メモリー i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ)
サーチャブル PDF	読込んだ原稿データを PDF に変換するときに、透明なテキストデータを貼付け、テキスト検索が可能な PDF ファイルを作成できます。 OCR の文字認識技術を利用して、スキャン画像から文字情報を自動的に作成します。 サーチャブル PDF 機能について詳しくは、6-2 ページをごらんください。	拡張メモリー i-Option4 (サーチャブル PDF)
サーチャブル PDF (ファクス受信文書)	転送ファクス機能や TSI 受信振分け機能を使って、受信したファクスを PDF 形式に変換してコンピューターなどに転送するとき、テキスト検索が可能なサーチャブル PDF ファイルを作成できます。 <ul style="list-style-type: none"> 転送ファクス機能について詳しくは、「ユーザーズガイド [ファクス機能] / [こんな受信のしかたがあります]」をごらんください。 TSI 受信振分け機能について詳しくは、「ユーザーズガイド [ファクス機能] / [こんな受信のしかたがあります]」をごらんください。 	拡張メモリー i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ)

機能	概要	必要なオプション
OOXML ファイル変換	<p>読込んだ原稿データを、OOXML 形式 (DOCX、XLSX) のファイルに変換して送信や保存ができます。また、透明なテキストデータを貼付け、テキスト検索が可能な OOXML ファイルを作成できます。</p> <p>OCRの文字認識技術を利用して、スキャン画像から文字情報を自動的に作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイル形式の指定方法については、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]] をご覧ください。 テキスト検索が可能な OOXML ファイルを作成する方法については、6-4 ページをご覧ください。 	<p>拡張メモリー i-Option8 (ファイル形式 拡張パッケージ)</p>
コンパクト PDF (プリント受信文書)	<p>プリンタードライバーを使って本機のボックスに保存したデータを、ボックスから取出して E-mail で送信したりコンピューターなどに送信したりするとき、ファイル形式としてコンパクト PDF を選べます。</p> <p>ボックスに保存したデータを送信する方法については詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [文書を複合機にファイルで保存、利用する]] をご覧ください。</p>	<p>拡張メモリー i-Option8 (ファイル形式 拡張パッケージ)</p>
高画質コンパクト PDF	<p>コンパクト PDF を作成するときに、画像の処理精度が向上します。</p> <p>色のついた文字や線の再現性が向上します。</p> <p>また、白抜き文字をテキスト検索の対象にすることができます。</p>	<p>拡張メモリー i-Option8 (ファイル形式 拡張パッケージ)</p>
バーコードフォント	<p>ERP (Enterprise Resource Planning) システムなどから本機に送られるデータからバーコードを生成し、本機から印刷できます。</p> <p>プリンタードライバーを介さずに、直接印刷できます。</p>	<p>拡張メモリー i-Option5 (バーコード フォント)</p>
Unicode フォント	<p>ERP (Enterprise Resource Planning) システムなどから本機に送られる多言語の文字情報 (Unicode) を印刷できます。</p> <p>プリンタードライバーを介さずに、直接印刷できます。</p>	<p>拡張メモリー i-Option6 (Unicode フォント)</p>
OCR フォント	<p>標準では OCR-B フォント (PostScript) を利用できます。拡張機能を有効にすると OCR-A フォント (PCL) を利用できるようになります。OCR フォントは、OCR (Optical Character Recognition、光学文字認識) を利用するとき、正確に文字を認識できるように標準化されたフォントです。</p>	<p>拡張メモリー i-Option7 (OCR フォン ト)</p>
E-mail 受信プリント	<p>本機のメールアドレス宛に E-mail を送信すると、E-mail に添付したファイルを、本機から印刷できます。</p> <p>E-mail 受信プリント機能については、「ユーザーズガイド [プリント機能] / [プリンタードライバーを使わずに印刷する]] をご覧ください。</p>	<p>拡張メモリー i-Option8 (ファイル形式 拡張パッケージ)</p>

アプリケーションソフトウェアと連携することで、以下の機能を利用できます。

機能	概要	必要なオプション
My パネル	ネットワーク上に接続したどの複合機からでも、自分専用のカスタマイズしたタッチパネルを使えます。 タッチパネルのカスタマイズ設定は、My Panel Manager サーバーに保存され、My Panel Manager 上で設定を変更できます。My パネル機能について詳しくは、7-3 ページをごらんください。	My Panel Manager アプリケーションライセンス
My アドレス	ネットワークに接続したどの複合機からでも、自分専用のアドレス帳を使えます。自分専用のアドレス帳は、My Panel Manager サーバーに保存され、My Panel Manager 上で編集できます。My アドレス機能について詳しくは、7-8 ページをごらんください。	拡張メモリー My Panel Manager デバイスライセンス



参考

- i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ) は、i-Option2 (PDF 高度暗号化) /i-Option4 (サーチャブル PDF) の機能ライセンスも含まれます。i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ) を購入する場合、i-Option2 (PDF 高度暗号化) /i-Option4 (サーチャブル PDF) を購入する必要はありません。
- アプリケーションと連携する機能は、アプリケーションの側で拡張機能を有効にします。詳しくは、アプリケーションのマニュアルをごらんください。

2

ライセンスキットを登録する

2 ライセンスキットを登録する

2.1 ライセンス登録について

一部の拡張機能をお使いいただくには、それぞれの機能に対応するライセンスキットを購入して、ライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) にライセンスの情報を登録する必要があります。また、LMS から発行されたライセンスコードを本機に登録して、本機で拡張機能を有効にする必要があります。

ライセンスキットを本機に登録するには、次の方法があります。本機をお使いの環境に応じて、適切な方法でライセンスを登録してください。

方法	説明	参照先
インターネット経由で自動的にライセンスを登録する	本機がインターネット上の LMS に接続し、ライセンス登録から、本機での拡張機能有効化までを、自動で行います。 本機がインターネットに接続されている必要があります。	2-3 ページ
手作業でライセンスを登録する	本機が直接インターネット上のライセンス管理サーバーに接続できない場合に、ライセンス管理サーバーの Web サイトにアクセスして、ライセンス登録を行います。 LMS と本機への情報の入力を、すべて手作業で行います。	2-4 ページ
USB メモリーを使ってライセンスを登録する	本機が直接インターネット上のライセンス管理サーバーに接続できない場合に、ライセンス管理サーバーの Web サイトにアクセスして、ライセンス登録を行います。 登録に必要な情報を USB メモリーを使ってやり取りするため、ライセンス登録に必要な情報を、手作業で入力する手間が省けます。	2-6 ページ

本機で拡張機能を登録するには、本機と LMS との間で、次の情報をやりとりします。

コード	説明	生成する場所
リクエストコード	本機を特定するためのコードです。 リクエストコードをもとに、機能コードとライセンスコードが生成されます。 本機の操作パネル、または Web Connection から生成します。	本機
トークン番号	拡張機能ライセンス購入のご契約を識別するためのコードです。 拡張機能を有効化するために必要です。	LMS
機能コード	それぞれの拡張機能を識別するためのコードです。	LMS
ライセンスコード	それぞれの拡張機能を有効にするためのコードです。	LMS

2.2 インターネット経由で自動的にライセンスを登録する

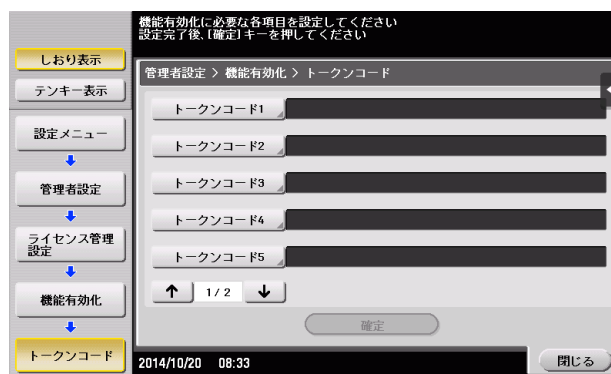
インターネット上のライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) でのライセンス登録から、本機での拡張機能有効化までを、自動で行います。

- ✓ 本機がインターネットに接続できることを確認してください。
- ✓ インターネット経由でライセンスを登録するときには、遠隔診断に使うプロキシサーバーを経由して、ライセンス管理サーバーに接続します。遠隔診断に使うプロキシサーバーの設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

1 ライセンスキットを購入します。

- ライセンスキットの種類については、1-2 ページをごらんください。
- ライセンスを登録するには、ライセンスキットに入っているトークン証明書が必要です。
- ライセンスキットの購入について詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

2 [設定メニュー] - [管理者設定] - [ライセンス管理設定] - [機能有効化] - [トークンコード] で、トークン番号を入力します。



- トークン番号は、トークン証明書に記載されています。
- **Web Connection** でトークン番号を登録することもできます。管理者モードの [メンテナンス] - [ライセンス管理設定] - [機能有効化] - [トークンコードによる機能有効化] で、トークン番号を入力します。

3 [確定] をタップします。

4 入力したトークン番号を確認して、[はい] を選び、[OK] をタップします。

本機がライセンス管理サーバーと通信を行い、トークン番号で管理されている拡張機能を有効にします。ライセンスの登録と拡張機能の有効化が正常に終了すると、本機が自動的に再起動します。

2.3 手作業でライセンスを登録する

本機からインターネットに接続できないときは、ライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) の Web サイトにアクセスして、手作業でライセンスを登録します。

ライセンスを登録すると、拡張機能を有効にするための情報 (ライセンスコード) を取得できます。本機にライセンスコードを入力すると、拡張機能が使えるようになります。

- 1 ライセンスキットを購入します。
 - ライセンスキットの種類については、1-2 ページをごらんください。
 - ライセンスキットに入っているトークン証書が、LMS でのライセンス登録に必要になります。
 - ライセンスキットの購入について詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
- 2 [設定メニュー] - [管理者設定] - [ライセンス管理設定] - [リクエストコード発行] で、[はい] を選び、[OK] をタップします。

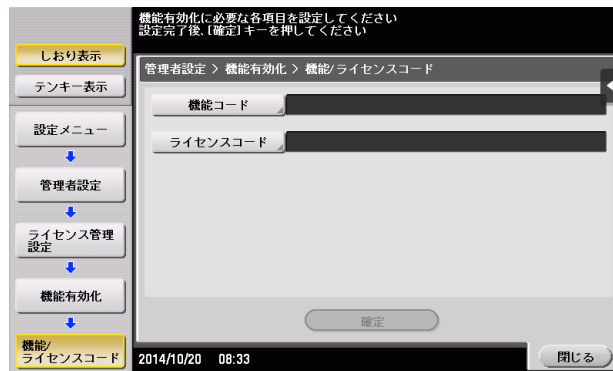
画面に本機のシリアル番号とリクエストコードが表示されます。

 - [印刷] をタップすると、画面に表示されたシリアル番号とリクエストコードを印刷できます。
 - **Web Connection** でリクエストコードを発行することもできます。管理者モードの [メンテナンス] - [ライセンス管理設定] - [リクエストコード発行] から発行します。画面に表示されたシリアル番号とリクエストコードをメモするか、Web ブラウザーの画面を印刷してください。
- 3 インターネットに接続できるコンピューターから、Web ブラウザーを開いて、ライセンス管理サーバー (LMS) の Web サイトに接続します。
 - ライセンス管理サーバーの Web サイトのアドレスは、ライセンスキットに入っているトークン証書に記載されています。
- 4 ライセンス管理サーバー (LMS) の Web サイトで、本機の次の情報を登録します。

項目	説明
リクエストコード	本機を特定するためのコードです。 リクエストコードを発行したときに、画面に表示されたコードです。
シリアル番号	本機のシリアル番号です。 リクエストコードを発行したときに、リクエストコードと同じ画面に表示されます。
トークン番号	拡張機能ライセンス購入のご契約を識別するためのコードです。 トークン証書に記載されています。

- 5 登録した内容を確認して、ライセンスコードを発行します。

機能コードと、ライセンスコードが発行されます。
- 6 [設定メニュー] - [管理者設定] - [ライセンス管理設定] - [機能有効化] - [機能 / ライセンスコード] で、LMS の Web サイトで発行された機能コードとライセンスコードを、本機に登録します。



- **Web Connection** で機能コードとライセンスコードを登録することもできます。管理者モードの [メンテナンス] - [ライセンス管理設定] - [機能有効化] - [機能コード、ライセンスコードによる機能有効化] で、機能コードとライセンスコードを登録します。

- 7 [確定] をタップします。
- 8 入力した機能コードとライセンスコードを確認して、[はい] を選び、[OK] をタップします。
本機で拡張機能が有効になります。また、本機が自動的に再起動します。

2.4 USB メモリーを使ってライセンスを登録する

本機からインターネットに接続できないときは、ライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) の Web サイトにアクセスして、手作業でライセンスを登録します。

ライセンスを登録すると、拡張機能を有効にするためのファイルを、USB メモリーに保存できます。本機に USB メモリーを挿入して、手作業でライセンスコードを入力することなく、拡張機能を有効にできます。

- 1 ライセンスキットを購入します。
 - ライセンスキットの種類については、1-2 ページをごらんください。
 - ライセンスキットに入っているトークン証書が、LMS でのライセンス登録に必要になります。
 - ライセンスキットの購入について詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
- 2 インターネットに接続できるコンピューターから、Web ブラウザーを開いて、ライセンス管理サーバー (LMS) の Web サイトに接続します。
 - ライセンス管理サーバーの Web サイトのアドレスは、ライセンスキットに入っているトークン証書に記載されています。
- 3 ライセンス管理サーバー (LMS) の Web サイトで、本機の次の情報を登録します。

項目	説明
シリアル番号	本機のシリアル番号です。
トークン番号	拡張機能ライセンス購入のご契約を識別するためのコードです。トークン証書に記載されています。

- 4 登録した内容を確認して、ライセンス有効化に必要なファイルを USB メモリーに保存します。
- 5 本機に、ライセンス有効化に必要なファイルを保存した USB メモリーを差込みます。
- 6 [設定メニュー] - [管理者設定] - [ライセンス管理設定] - [外部メモリーで有効化] で、[はい] を選び、[OK] をタップします。

本機で拡張機能が有効になります。また、本機が自動的に再起動します。

3

Web ブラウザー機能を使う

3 Web ブラウザー機能を使う

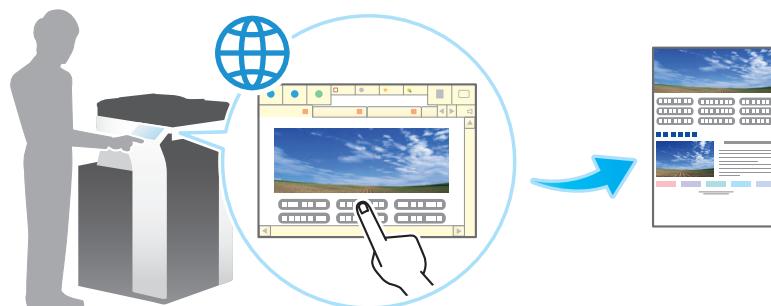
3.1 Web ブラウザー機能について

Web ブラウザー機能でできること

本機で Web ブラウザー機能を有効にすると、本機のタッチパネルで、Web ブラウザーを使えます。

Web ブラウザー機能では、次のことができます。

- インターネットやイントラネット上の Web コンテンツの表示と印刷
- インターネットやイントラネット上のファイルの印刷、表示、保存
- 読込んだ原稿データのアップロード（インターネット上およびイントラネット上のサーバー）
- ボックス内のファイルのアップロード（インターネット上およびイントラネット上のサーバー）
- ネットワーク上の複合機のボックス内のファイルの利用（Web Connection 経由）
- 自分専用の Web ブラウザー設定を使用（My Panel Manager との連携が必要）



Web ブラウザーの仕様

本機で使用する Web ブラウザーの主な仕様は、次のとおりです。

項目	仕様
ブラウザエンジン	WebKit
プロトコル	HTTP(HTTP/1.1)、HTTPS、TCP/IP
マークアップ言語	HTML 4.01、HTML 5 の一部、XHTML 1.1/Basic
スタイルシート	CSS1、CSS2.1
スクリプト言語	JavaScript 1.7、ECMAScript 3rd Edition、Ajax(Javascript のサポート内に限る)
DOM	Level 1、2
ファイル形式	JPEG、BMP、PNG、GIF、アニメーション GIF、PDF
SSL/TLS バージョン	SSL 3.0、TLS 1.0
文字コード	日本語 (Shift_JIS)、日本語 (ISO-2022-JP)、日本語 (EUC-JP)、簡体字中国語 (GB2312)、繁体字中国語 (Big5)、西ヨーロッパ言語 (ISO-8859-1)、Unicode(UTF-8)
PDF 閲覧ソフトウェア	Adobe® Reader® LE

参考

- Web ブラウザーでは、タップやフリックなどのジェスチャーを使って、Web コンテンツを直感的に操作できます。本機で使えるジェスチャーについては、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [タッチパネルの操作と主な画面の紹介]」をごらんください。ただし、ロングタップは使えません。

免責

本機の Web ブラウザー機能を使用すると、本機のタッチパネルから、インターネット上のコンテンツにアクセスできます。

使用者は、複合機の Web ブラウザーを使用してアクセス、ダウンロード、アップロードした内容、およびその他の通信した内容について責任を負います。使用者は、会社の規則および国の法律に従うものとします。

村田機械株式会社およびそのグループ会社は、使用者のインターネットのご利用について、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

3.2 Web ブラウザー機能を有効にする (管理者向け)

Web ブラウザー機能を有効にする

- ✓ Web ブラウザー機能を有効にするとき、本機が自動的にインターネット上のライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) へ接続し、ライセンスの登録を行います。あらかじめ本機がインターネットに接続できることを確認してください。
- ✓ インターネット経由でライセンスを登録するときには、遠隔診断に使うプロキシサーバーを経由して、ライセンス管理サーバーに接続します。遠隔診断に使うプロキシサーバーの設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。
- ✓ 本機がライセンス管理サーバーへ接続できない場合、手動でライセンスの登録を行う必要があります。Web ブラウザー機能を有効にする前に、コンピューターからライセンス管理サーバーの Web サイトへアクセスして、Web ブラウザー機能を有効にするために必要なライセンス情報を取得してください。取得方法について詳しくは、3-4 ページをごらんください。

1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [ネットワーク設定] - [Web ブラウザー設定] - [Web ブラウザー使用設定] をタップします。

2 [使用する] を選び、[OK] をタップします。

本機が自動的に再起動し、Web ブラウザーが使用できる状態になります。

Web ブラウザー機能を有効にできなかった場合は、手順 3 へ進み、ライセンス管理サーバーの Web サイトで取得したライセンス情報を登録します。

3 本機にライセンス情報を登録します。

→ ライセンスの有効化に必要なファイルを USB メモリーに保存している場合は、本機に USB メモリーを差込み、[外部メモリーで有効化] を選びます。[はい] を選び、[OK] をタップすると、Web ブラウザー機能を有効にする処理を開始します。

→ 手動でライセンスコードを入力する場合は、[機能 / ライセンスコード] を選び、ライセンスコードを入力してから [確定] をタップします。[はい] を選び、[OK] をタップすると、Web ブラウザー機能を有効にする処理を開始します。

本機が自動的に再起動し、Web ブラウザーが使用できる状態になります。

ライセンス情報を取得する

本機がライセンス管理サーバー (LMS、License Management Server) へ接続できない場合、手動でライセンスの登録を行う必要があります。Web ブラウザー機能を有効にする前に、コンピューターからライセンス管理サーバーの Web サイトへアクセスして、Web ブラウザー機能を有効にするために必要なライセンス情報を取得します。

1 [設定メニュー] - [装置情報表示] で、本機のシリアル番号を表示し、メモします。

2 インターネットに接続できるコンピューターから、Web ブラウザーを開いて、ライセンス管理サーバー (LMS) の Web サイトに接続します。

→ Web サイトのアドレス : <https://licensemanage.com/activate>

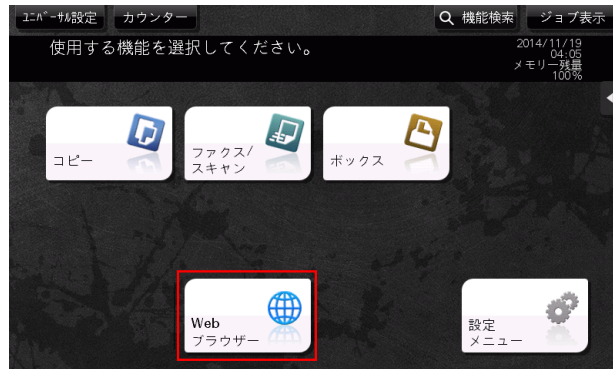
3 ライセンス管理サーバー (LMS) の Web サイトで、本機のシリアル番号を入力します。
ライセンスコードが発行されます。

3.3 基本的な使い方

3.3.1 Web ブラウザーを起動する

Web ブラウザーは、次の操作で起動します。

- トップメニューから [Web ブラウザー] をタップする
- [Web ブラウザー] を割当てた操作パネルのハードキーまたはスライドメニューのソフトキーを押す



Web ブラウザーを起動すると、あらかじめ設定されたホーム画面が表示されます。

参考

- My Panel Manager と連携しているときは、ログインしているユーザーがホームページとして設定しているページを表示します。
- ユーザー認証や部門管理を導入していない場合に、操作パネルの ID を押すと、Web ブラウザーが再起動します。

参照

操作パネルの登録キーから Web ブラウザーを起動するには、登録キーに Web ブラウザーを割当てる必要があります。詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [登録キーに割当てる機能を変更する]」をごらんください。

スライドメニューの登録キーから Web ブラウザーを起動するには、登録キーに Web ブラウザーを割当てる必要があります。詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [タッチパネルの操作と主な画面の紹介]」をごらんください。

3.3.2 Web ブラウザーの構成

画面構成

Web ブラウザーの画面は、次のように構成されています。



No.	名前	説明
1	ウィンドウ	読み込んだページの内容を表示します。 複数のウィンドウを表示しているときは、上部にタブが表示されます。タブをタップすると、ウィンドウを切替えられます。タブは 5 つまで表示できます。 タブの [x] をタップすると、ページを閉じます。
2	ツールバー	ツールバーのアイコンをタップすると、ページの移動や再読み込み、ブックマークの表示や追加ができます。 アドレス入力欄に URL を入力すると、直接 URL で指定したページを表示できます。 また、Web ブラウザーの設定ができます。 ツールバーについて詳しくは、3-6 ページをごらんください。
3	アイコン	Web ブラウザーの動作状態をアイコンで表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ページの読み込み中には、接続中のアイコンを表示します。 本機にオプションのローカル接続キットを装着しているときは、スピーカーの音量を、スピーカーアイコンで表示します。 スピーカーアイコンをタップすると、スピーカーの音量を調節できます。詳しくは、3-11 ページをごらんください。

ツールバーの内容

ツールバーでは、次のボタンを利用できます。

アイコン	説明
[戻る]	前のページに戻ります。
[進む]	次のページに進みます。
[リロード]	表示しているページを再度読み込んで、最新の内容に更新します。 ページの読み込み中にタップすると、ページの読み込みを中止します。
[ホーム]	ホームとして登録したページを表示します。 初期設定は、空白ページが登録されています。
[印刷]	表示しているページを印刷します。
[メニュー]	Web ブラウザーの設定をします。 メニューには、ユーザー用のメニューと管理者用のメニューがあります。

3.3.3 Web ページを表示する

URL を指定して表示する

ツールバーにページの URL を入力して、直接ページを表示します。



ツールバーのテキスト入力欄をタップすると、画面にキーボードが表示されます。表示したいページの URL を入力して、[OK] をタップします。



参考

- [クリア] をタップすると、入力した URL がすべて削除されます。

閲覧履歴から表示する

これまでに表示したページの一覧から、表示したいページを選べます。



ツールバーの [メニュー] - [履歴] をタップすると、これまで表示したページの一覧を表示します。一覧から表示したいページを選び、[同じタブで開く] または [新しいタブで開く] をタップします。

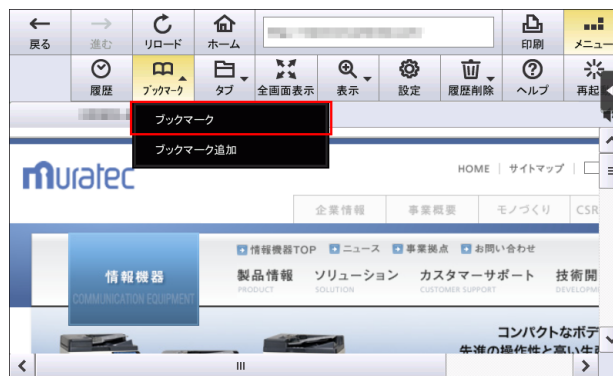


参考

- 履歴を削除するには、本機の管理者パスワードの入力が必要です。
[すべて削除]：履歴をすべて削除します。
[削除]：選んだページを、履歴の一覧から削除します。
- 本機では、ページの閲覧履歴を 100 件まで保存できます。
- My Panel Manager と連携しているときは、サーバーで管理しているユーザーのページ表示履歴を 20 件まで表示できます。

ブックマークを表示する

本機に登録されているブックマーク（お気に入り）の一覧から、表示したいページを選べます。



ツールバーの [メニュー] - [ブックマーク] - [ブックマーク] をタップすると、本機に登録されているブックマークの一覧を表示します。

一覧から表示したいページを選び、[同じタブで開く] または [新しいタブで開く] をタップします。

参考

- [サムネイル表示] / [リスト表示] をタップすると、ブックマークの一覧の表示方法を切換えることができます。
- [編集 / 削除] をタップすると、ブックマークのタイトルと URL を変更できます。
- My Panel Manager と連携しているときは、サーバーで管理しているユーザーのブックマークを表示できます。
- ブックマークを削除するには、本機の管理者パスワードの入力が必要です。
[すべて削除]：ブックマークをすべて削除します。
[編集 / 削除] - [削除]：選んだページを、ブックマークの一覧から削除します。

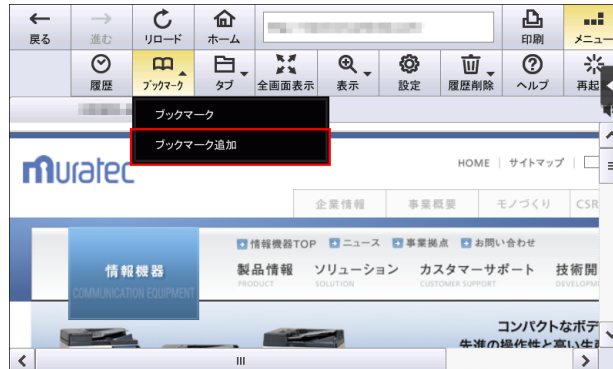
参照

ブックマークの追加のしかたについて詳しくは、3-9 ページをごらんください。

3.3.4 表示中のページを操作する

ブックマークを追加する（管理者向け）

表示しているページを、本機にブックマーク（お気に入り）として追加できます。ブックマークを追加するときには、本機の管理者パスワードの入力が必要です。



ブックマークとして追加したいページを表示し、[メニュー] - [ブックマーク] - [ブックマークの追加] をタップします。

必要に応じて、ページのタイトルを変更して、[OK] をタップします。

参考

- 本機では、ブックマークを 100 件まで保存できます。
- My Panel Manager と連携しているときは、管理者パスワードを入力しなくても、ブックマークを追加できます。ブックマークは、サーバーに 20 件まで保存できます。

表示中のページを印刷する

表示しているページを本機から印刷できます。



ツールバーの [印刷] をタップすると、印刷画面が表示されます。

必要に応じて印刷設定をしてから、スタートを押すと、表示しているページを印刷します。

印刷画面では、次の印刷設定ができます。

設定	説明
[カラー]	印刷するカラーモードを選びます。
[用紙]	印刷する用紙のサイズを選びます。
[片面 / 両面]	用紙の片面に印刷するか、両面に印刷するかを選びます。
[仕上り]	ソート、グループ、仕分け、ステープル、パンチ、紙折り、中とじの設定をします。 本機のオプションの装着状態によって、設定できる機能が異なります。

参考

- メモリーを多く消費するページや、JPEG などの画像を印刷するときは、読み込みエラーが発生して印刷できない場合があります。
- Web ブラウザーでのファイルのダウンロードが禁止されている場合、この機能は利用できません。

ページの表示方法を変更する

ツールバーの [メニュー] - [表示] で、ページの拡大縮小、文字コードの変更などができます。



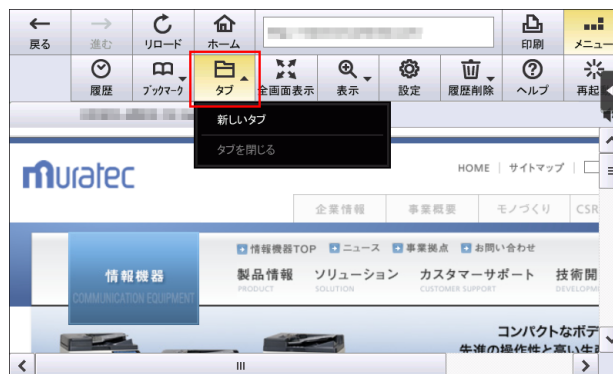
設定	説明
[ズームイン]	ページを拡大して表示します。
[ズームアウト]	ページを縮小して表示します。
[ズームのリセット]	ページの拡大・縮小率を、等倍に戻します。
[文字サイズだけ変更]	チェックをつけると、[ズームイン] または [ズームアウト] を選んだときに、文字の大きさだけが拡大または縮小されます。
[フォント]	フォント指定のないコンテンツを表示するときに使うフォントを選びます。本機の管理者パスワードの入力が必要です。
[文字コード]	文字コードを変更します。文字コードの選択画面は、地域ごとにグループ化されて表示されます。 任意の文字コードを設定して Web ページの表示を切換えることで、文字化けが発生しても対処することができます。

参考

- ピンチイン、ピンチアウトのジェスチャーを使っても、ページを拡大または縮小できます。

ウィンドウを操作する

ツールバーの [メニュー] - [タブ] で、タブを操作できます。



設定	説明
[新しいタブ]	新しいタブを開きます。
[タブを閉じる]	現在表示しているタブを閉じます。

参考

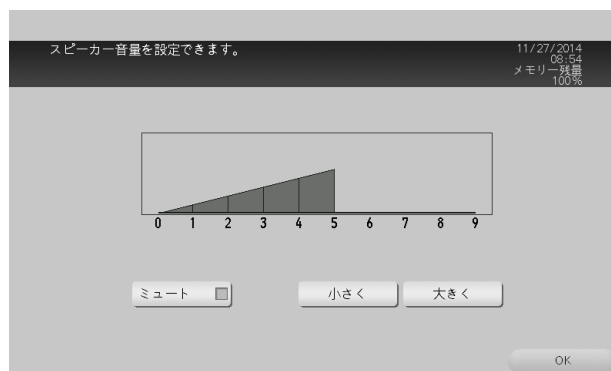
- ツールバーの [メニュー] - [全画面表示] をタップすると、ウィンドウを画面全体に表示できます。全画面表示で [標準表示] をタップすると、元の表示に戻ります。

コンテンツの再生音を調節する

本機にローカル接続キットが装着されているときは、表示している Web ページや動画コンテンツの音声を、スピーカーから聞くことができます。

Web ブラウザー画面のスピーカーアイコンをタップすると、スピーカーの音量を調節できます。

- [大きく] をタップすると、音量が 1 段階大きくなります。
- [小さく] をタップすると、音量が 1 段階小さくなります。
- [ミュート] にチェックをつけると、無音になります。

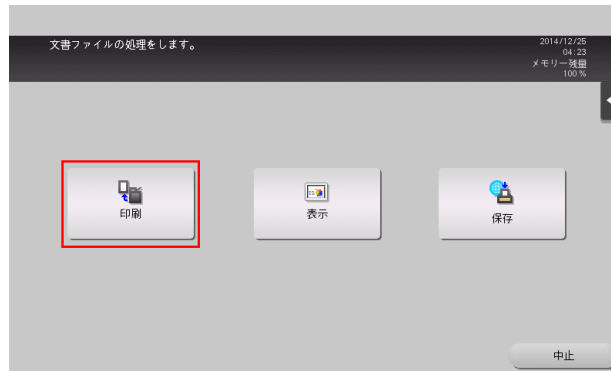


3.3.5 Web 上のファイルを活用する

Web 上のファイルを印刷する

表示したページにファイルへのリンクがあるときは、リンク先のファイルを本機から印刷できます。本機では、PDF 形式、XPS 形式、OOXML 形式、PPML 形式、TIFF 形式のファイルを印刷できます。

- 1 印刷したいファイルへのリンクをタップします。
- 2 [印刷] をタップします。



- 3 必要に応じて、印刷設定をします。

設定	説明
[カラー]	印刷するカラーモードを選びます。
[用紙]	印刷する用紙のサイズを選びます。
[片面 / 両面]	用紙の片面に印刷するか、両面に印刷するかを選びます。両面印刷を設定する場合は、とじ方向を選びます。
[仕上り]	ソート、グループ、仕分け、ステープル、パンチ、紙折り、中とじの設定をします。本機のオプションの装着状態によって、設定できる機能が異なります。
[印刷範囲]	PDF ファイルを印刷する場合に、印刷するページの範囲を指定します。
[応用設定] - [ページ割付]	複数ページを 1 ページに集約して印刷するための設定をします。

- 4 スタートを押します。
印刷が開始されます。

参考

- メモリーを多く消費するファイルや、JPEG などの画像を印刷するときは、読み込みエラーが発生して印刷できない場合があります。
- Web ブラウザーでのファイルのダウンロードが禁止されている場合、この機能は利用できません。
- パスワードが設定された PDF ファイルを印刷すると、パスワード暗号化 PDF ボックスに保存されます。パスワード暗号化 PDF ボックスに保存されたファイルの印刷のしかたについては、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [暗号化された PDF を印刷する (パスワード暗号化 PDF)]」をご覧ください。

Web 上のファイルを表示する

表示したページにファイルへのリンクがあるときは、リンク先のファイルを本機のタッチパネルに表示できます。

本機では、PDF 形式のファイルを表示できます。

- 1 表示したいファイルへのリンクをタップします。
- 2 [表示] をタップします。
リンク先の PDF ファイルがタッチパネルに表示されます。



- 3 ツールバーを操作して、ファイルの内容を確認します。

参考

- Web ブラウザーでのファイルのダウンロードが禁止されている場合、この機能は利用できません。

Web 上のファイルをボックスに保存する

表示したページにファイルへのリンクがあるときは、リンク先のファイルを本機のボックスに保存できます。

本機では、PDF 形式、XPS 形式、OOXML 形式、PPML 形式、TIFF 形式のファイルを保存できます。

- 1 保存したいファイルへのリンクをタップします。
- 2 [保存] をタップします。



- 3 保存先のボックスを選び、[OK] をタップします。
- 4 [実行] をタップするか、またはスタートを押します。
ファイルがボックスに保存されます。

参考

- Web ブラウザーでのファイルのダウンロードが禁止されている場合、この機能は利用できません。

3.3.6 本機からファイルをアップロードする

お使いになる前に

本機の Web ブラウザーを使って、本機で読み込んだ原稿データや、本機のボックス内のファイルを、Web サイトにアップロードできます。

本機からファイルをアップロードするときは、次の点にご注意ください。

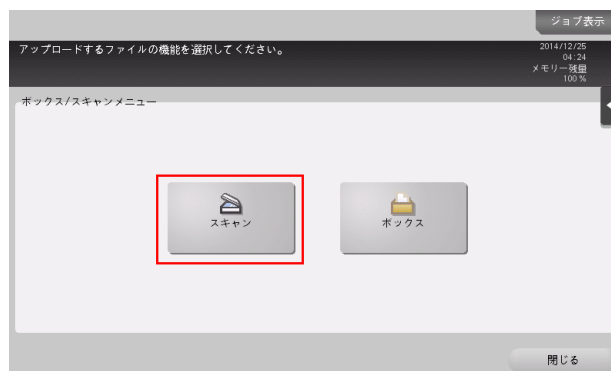
- アップロードできるファイルの形式は、PDF、コンパクト PDF、TIFF、XPS、コンパクト XPS、OOXML です。
- 同時に複数のファイルをアップロードできません。
- アップロードするファイルを選んだあと、次の操作が行われたときは、ジョブが削除されます。また、選んだファイルも削除されます。
 - システムオートリセット機能が作動したとき
 - Web ブラウザーを閉じたとき
 - Web ブラウザーのツールバーの操作などにより、ページを更新したとき
 - Web ブラウザーを再起動したとき
 - 本機からログアウトしたとき
 - 電源を OFF にしたとき
 - リセットを押して、パネルをリセットしたとき

参考

- Web ブラウザーでのファイルのアップロードが禁止されている場合、この機能は利用できません。

原稿データを読み込んでアップロードする

- 1 本機の Web ブラウザーで、ファイルをアップロードするページを表示し、[参照] をタップします。
- 2 [スキャン] をタップします。



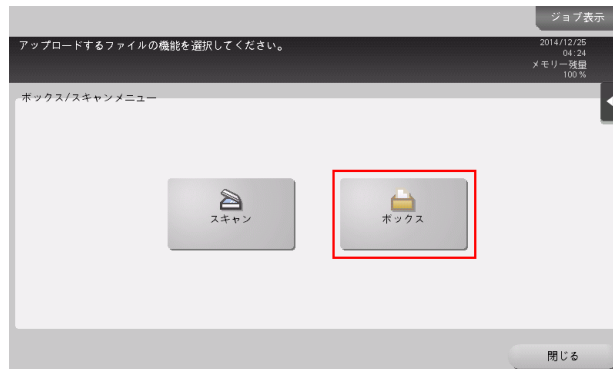
- 3 アップロードする原稿を本機にセットします。
- 4 必要に応じて、読み込み設定を変更します。
- 5 スタートを押します。

読み込みが終了すると、ページのテキストボックスに、読み込んだ原稿データのファイル名が表示されます。
- 6 [OK] をタップします。

ファイルのアップロードが開始されます。

ボックス内のファイルをアップロードする

- 1 本機の Web ブラウザーで、ファイルをアップロードするページを表示し、[参照] をタップします。
- 2 [ボックス] をタップします。



- 3 アップロードしたいファイルが保存されているボックスを選び、[開く] をタップします。
→ 共有ボックスまたは個人ボックスから選べます。
- 4 アップロードしたいファイルを選び、[アップロード] をタップします。
- 5 必要に応じて、送信設定を変更します。
- 6 スタートを押します。
ページのテキストボックスに、選んだファイルのファイル名が表示されます。
- 7 [OK] をタップします。
ファイルのアップロードが開始されます。

3.3.7 使用環境を設定する

ツールバーの [メニュー] - [設定] をタップすると、Web ブラウザーの詳細な設定ができます。[設定] を表示するには、本機の管理者パスワードの入力が必要です。

[本体データ 1] タブ

設定	説明
[キャッシュ]	必要に応じて、Web ブラウザーのキャッシュ機能の設定をします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [キャッシュを利用する]：チェックをつけると、Web ブラウザーでキャッシュ機能を使います。 ・ [キャッシュを削除]：本機に保存されているキャッシュデータを、すべて削除します。 ・ [キャッシュを削除するタイミング]：キャッシュデータを削除するタイミングを選びます。
[Cookie]	Cookie を使うときは、[Cookie を受信する] にチェックをつけます。
[JavaScript]	ページに埋込まれている JavaScript を有効にするときは、[JavaScript を有効にする] にチェックをつけます。
[動画プレイヤー]	ページに埋込まれている動画コンテンツを再生できるようにするには、[動画を再生する] にチェックをつけます。
[ソフトウェアキーボード]	本機に外付けキーボードが装着されていても、画面に表示されるキーボードを使って文字を入力するときは、[ソフトウェアキーボードを優先して使用する] にチェックをつけます。

設定	説明
[プロキシ設定]	<p>プロキシの使用に関する設定をします。</p> <p>プロキシを使う場合は、プロキシサーバーのアドレスやポート番号を入力します。</p> <p>プロキシ認証が必要な場合は、プロキシ認証で使う ID とパスワードを入力します。</p> <p>[プロキシを使用しないドメイン] で、プロキシ経由で接続を行わないドメインを指定できます。ドメインの IP アドレスを直接入力するか、アスタリスク (*) を使用して、任意のアドレス範囲を指定します。たとえば、「192.168.1.1」から「192.168.1.255」の範囲を指定するには、「192.168.1.*」と入力します。</p>
[セキュリティ設定]	<p>TLS1.2、TLS1.1、TLS1.0、SSL3.0 をそれぞれ使用するかしないかを設定できます。また、ルート証明書や CA 証明書を表示できます。初期設定では、TLS1.2、TLS1.1、TLS1.0 を使用します。</p> <p>通信暗号化方式の設定には、暗号化強度が強い順に、(1)TLS1.2、(2)TLS1.1、(3)TLS1.0、(4)SSL3.0 の設定があります。本機では、選択された暗号化強度が高い方式と低い方式の間の設定は、自動的に有効化されます。たとえば、(1)TLS1.2 と (4)SSL3.0 を有効化した場合、(2)TLS1.1 と (3)TLS1.0 の暗号化方式設定も、有効となります。また、自動的に有効化された、暗号化強度が高い方式と低い方式の間の設定は、自動的にチェックが追加され、変更はできません。</p>
[アクセスログ]	<p>すべてのユーザーのアクセス履歴を確認できます。</p> <p>ユーザーの番号とユーザー名、アクセスしたページの URL やアクセスした日時を表示します。</p>


[本体データ 2] タブ

設定	説明
[ホームページ]	<p>ホームページとして登録するページの URL を入力します。</p> <p>[現在のページを設定] をタップすると、現在表示しているページがホームページとして登録されます。</p>
[スタートアップ]	<p>Web ブラウザーを起動したときに表示するページを選びます。</p>
[Cookie]	<p>Web ブラウザーの Cookie 機能の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cookie 管理]：本機に保存されている Cookie を一覧で表示します。 • [Cookie を削除するタイミング]：Cookie を本機から削除するタイミングを選びます。
[認証情報]	<p>Web ブラウザーの認証情報 (パスワードなど) の設定をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [認証情報を削除]：本機に保存されている認証情報を、すべて削除します。 • [認証情報を削除するタイミング]：認証情報を本機から削除するタイミングを選びます。

 参考

ユーザー認証の認証方式として [本体装置認証]、[外部サーバー認証]、[本体 + 外部サーバー] のいずれかを導入している場合、または My Panel Manager と連携している場合は、ユーザーごとに次の設定を保存することができます。

- [ホームページ]
- [スタートアップ]
- [Cookie] に関する設定
- [認証情報] に関する設定

 関連設定 (管理者向け)

- Web ブラウザーのユーザーデータの設定操作を、ユーザーに許可するかどうかを設定できます (初期値：[管理者のみ])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をご覧ください。

3.3.8 履歴情報を削除する

ツールバーの [メニュー] - [履歴削除] で、Cookie やキャッシュ、認証情報などを削除できます。



設定	説明
[すべて削除]	本機に保存されている Cookie、認証情報、キャッシュデータ、閲覧履歴をすべて削除します。
[Cookie 削除]	本機に保存されている Cookie を、すべて削除します。Cookie を削除することで、Web ページへのアクセス情報や、Web ページ上で入力した ID やパスワードなどの個人情報の漏えいを未然に防ぐことができます。
[認証情報削除]	本機に保存されている認証情報を、すべて削除します。
[キャッシュ削除]	本機に保存されているキャッシュデータを、すべて削除します。
[履歴削除]	本機に保存されている閲覧履歴を、すべて削除します。

3.3.9 Web ブラウザーを再起動する

ツールバーの [メニュー] - [再起動] をタップすると、Web ブラウザーが再起動します。

3.3.10 Web ブラウザーの情報を表示する

ツールバーの [メニュー] - [ヘルプ] をタップすると、Web ブラウザーの情報を表示します。

3.4 Web Connection を使う

3.4.1 Web Connection を使ってできること

Web Connection は、複合機に内蔵されている、管理用のユーティリティソフトウェアです。

本機の Web ブラウザーでネットワーク上の複合機にアクセスして Web Connection を表示し、複合機のボックス内のファイルを共有できます。

3.4.2 Web Connection を表示する

アクセスのしかた

本機の Web ブラウザーを起動して、アクセスしたい複合機の IP アドレスを指定します。

- 1 Web ブラウザーのツールバーのアドレス入力欄をタップします。
キーボード画面が表示されます。
- 2 アクセスしたい複合機の IP アドレスを入力して、[OK] をタップします。
Web ブラウザーの画面に、アクセス先の複合機の Web Connection の画面が表示されます。

Web Connection の画面構成

Web Connection の画面は、次のように構成されています。



No.	名前	説明
1	ログインユーザー名	ログインしているモードと、ユーザー名を表示します。
2	[ログアウト]	Web Connection からログアウトします。
3	内容の表示	Web Connection の内容が表示されます。 本機の Web ブラウザーを使用してアクセスするときは、ボックス機能が表示されます。

ログインとログアウト

アクセス先の複合機でユーザー認証や部門管理を導入している場合は、ログイン画面が表示されます。

ユーザー名などの必要な情報を入力して、Web Connection にログインします。

Web Connection にログインした後に、他のログインモードで利用したいときは、いったんログアウトする必要があります。画面右上の [ログアウト] をタップして、ログイン画面に戻ります。

3.4.3 ネットワーク上の複合機のボックスを利用する

ボックスを開く

Web Connection でログインすると、アクセスした複合機に登録されているボックスの一覧が表示されます。

共有ボックス、個人ボックス、グループボックスから、開きたいボックスの名前をタップして、ボックスを開きます。

参考

- 目的のボックスのボックス番号を直接入力して開くこともできます。
- ボックスにパスワードが設定されているときは、パスワードの入力が必要です。

ボックス内のファイルを印刷する

- 1 ボックスを開きます。
- 2 印刷したいファイルを選び、印刷を実行します。
→ 選んだファイルによっては、印刷できないことがあります。
- 3 必要に応じて、印刷設定を変更して、[OK] をタップします。
- 4 [ファイルを表示] をタップします。
- 5 [印刷] をタップします。



- 6 必要に応じて、印刷設定を変更して、スタートを押します。
印刷が開始されます。

ボックス内のファイルを削除する

- 1 ボックスを開きます。
- 2 削除したいファイルを選び、削除を実行します。
アクセス先の複合機のボックスからファイルが削除されます。

3.5 My Panel Manager と連携する

Web ブラウザーと My Panel Manager を連携させると、ネットワーク上のどの複合機でも、自分専用の Web ブラウザー設定を使えます。

自分がよく見るページや、お気に入りのページなどがサーバーで管理されるので、どの複合機にログインしても、普段の作業効率を維持したまま、快適に作業できます。

My Panel Manager では、次の設定や情報を、ユーザーごとに管理できます。

- ホームページ
- ブックマーク
- ページの表示履歴
- URL の入力履歴
- Cookie
- 認証情報



参照

My Panel Manager について詳しくは、7-2 ページをごらんください。

ホームページやブックマークの登録情報は、My Panel Manager から編集することもできます。詳しくは、My Panel Manager のマニュアルをごらんください。

3.6 Web ブラウザーの使用を制限する

Web ブラウザーでのファイル操作を制限する

Web ブラウザーで表示するサイトで、ファイルのアップロードおよびダウンロードを許可するかどうかを設定します。

- 1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [ネットワーク設定] - [Web ブラウザー設定] - [ファイル操作許可設定] をタップします。
- 2 ファイル操作を許可するかどうかを設定します。

項目	説明
[アップロード]	Web ブラウザーで表示しているサイトへ、本機でスキャンしたデータをアップロードすることを許可するかを選びます。 指定したサイトに限りアップロードできるようにする場合は、[許可 URL のみ] を選び、ファイルのアップロードを許可するサイトの URL を入力します（半角 256 文字以内）。 初期値は [使用する] です。
[ダウンロード]	Web ブラウザーで表示しているサイトから、ファイルを本機へダウンロードすることを許可するかを選びます。 指定したサイトに限りダウンロードできるようにする場合は、[許可 URL のみ] を選び、ファイルのダウンロードを許可するサイトの URL を入力します（半角 256 文字以内）。 初期値は [使用する] です。

ユーザーごとに Web ブラウザーの使用を制限する

本機でユーザー認証を導入している場合は、ユーザーごとに Web ブラウザーの使用を制限できます。

- 1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [ユーザー認証 / 部門管理] - [ユーザー認証設定] - [ユーザー登録] をタップします。
- 2 Web ブラウザーの使用を禁止したいユーザーを選び、[編集] - [機能制限] をタップします。
→ パブリックユーザーの Web ブラウザーの使用を禁止したい場合は、[?] をタップして、[Public] を選びます。
- 3 Web ブラウザーの使用を制限します。
→ Web ブラウザーの使用を禁止する場合は、[許可しない] を選びます。
→ Web ブラウザーでのファイル操作を制限する場合は、[許可する] を選んでから [個別管理] を選び、アップロード操作とダウンロード操作を、それぞれ許可するかどうかを選びます。

ローカルコンテンツの利用を禁止する

本機で IWS (Internal Web Server) 機能を有効にすると、本機のハードディスクに Web ページコンテンツ (ローカルコンテンツ) を転送して、本機の Web ブラウザーから利用できます。お使いの環境に合わせて、静的なコンテンツのほか、スクリプトを使った動的なコンテンツも利用できます。

本機の管理者は、必要に応じて、本機のハードディスクに保存したローカルコンテンツを、本機の Web ブラウザーから利用できないように設定できます。

- 1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [セキュリティ設定] - [セキュリティ詳細] をタップします。
- 2 [Web ブラウザーコンテンツアクセス] を [禁止] に設定し、[OK] をタップします。

参照

IWS 機能について詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

4

音声ガイドを使う

4 音声ガイドを使う

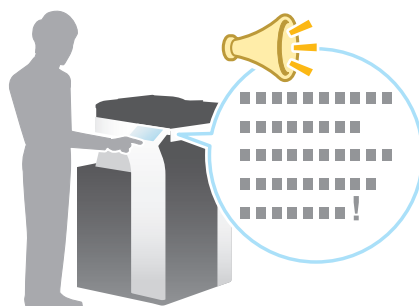
4.1 音声ガイドについて

音声ガイドは、おもに画面やキーの説明、キーに関連する動作の説明が音声で流れ、操作の補助や誤操作の抑止に役立ちます。画面表示が見にくい方でも、音声によるガイダンスで操作をフォローします。

拡大表示画面、ガイド画面、ユニバーサル設定画面のいずれかを表示して、次の操作を行うと、音声ガイド機能を使うことができます。

- 音声ガイドを押す（オプションのキーパッドを装着している場合）
- 音声ガイド機能を割当てた登録キーを押す

また、ファクス/スキャンモードの画面で音声アイコンをタップすると、ファクス番号を直接入力するときに、操作内容を読上げることができます。



参考

- この機能を使うには、オプションの拡張メモリー、i-Option3（音声ガイド）、ローカル接続キットが必要です。
- 本機にオプションのキーパッドを装着すると、テンキーで音声ガイドを操作することができます。登録キーへの音声ガイドの割当ては不要です。

4.2 お使いになるために必要な作業（管理者向け）

音声ガイドを有効化する

音声ガイド機能を使うには、本機で音声ガイド機能を有効にします。

- 1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [音声ガイド設定] をタップします。
- 2 [音声ガイド] を [する] に設定します。
- 3 [OK] をタップします。
音声ガイド機能が有効になります。

登録キーに音声ガイドを割当てる

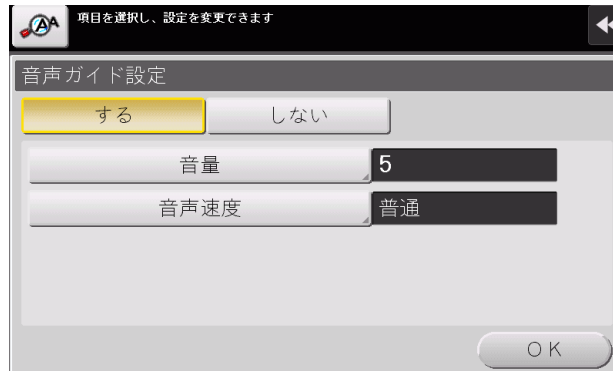
オプションのキーパッドが非装着の場合、操作パネルのハードキーまたはスライドメニューに音声ガイドを割当てます。

- 1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [登録キー設定] で、[ハードキー] または [ソフトキー] をタップします。
- 2 設定する登録キーを選択し、[音声ガイド] を設定します。
- 3 [OK] をタップします。
登録キーに音声ガイドが割当てられます。

4.3 音声ガイドの音量と再生速度を変更する

音声ガイドの音量や、再生速度を変更できます。

- 1 トップメニューから [ユニバーサル設定] - [音声ガイド設定] をタップします。
- 2 音声ガイドの音量や、再生速度を変更します。



設定	説明
[する] / [しない]	音声ガイドを使うときは、[する] を選びます。 初期値は [しない] です。
[音量]	音声ガイドの音量を変更します。 ・ [大きく]: 音量を 1 段階大きくします。 ・ [小さく]: 音量を 1 段階小さくします。 初期値は [5] です。
[音声速度]	音声ガイドの再生速度を選びます。 ・ [速い]、[普通]、[遅い] の 3 段階から速度を選びます。 初期値は [普通] です。

- 3 [OK] をタップします。

4.4 音声ガイドの使い方

音声ガイドを開始する

音声ガイドに対応する画面を表示して、次の操作を行うと、音声ガイドが始まります。

- 音声ガイドを押す（オプションのキーパッドを装着している場合）
- 音声ガイド機能を割当てた登録キーを押す

音声ガイドが始まると、音声ガイドの開始を知らせる音声流れます。



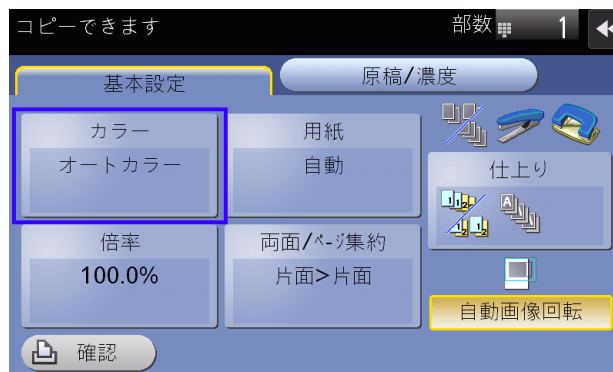
音声ガイドは、おもに次の画面に対応しています。

対応画面	説明
拡大表示画面	<p>拡大表示を押したときに表示する画面です。コピーモード、ファクス/スキャンモードを使うとき、警告が発生したとき、動作中などに、音声流れます。次の情報が音声で流れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • キーやキーに関連する動作 • メッセージ • 現在の設定値
ユニバーサル設定画面	<p>トップメニューの「ユニバーサル設定」をタップしたときに表示する画面です。次の情報が音声で流れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • キーやキーに関連する動作 • メッセージ • 現在の設定値 <p>また、音声ガイドの音量や音声速度を設定できます。</p>
ガイド画面	<p>ガイドを押したときに表示する画面です。次の情報が音声で流れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • キーやキーに関連する動作 • ガイドの内容

操作のしかた

音声で確認したいキーをタップします。

音声ガイドが始まると、タッチパネルのどの部分の説明をしているのかが一目でわかるように、音声カーソル（青枠）が表示されます。



参考

- 音声ガイドに対応していない画面では、音声カーソルは表示されません。本機にオプションのキーパッドを装着している場合は、テンキーで操作します。テンキーで音声カーソルを移動して、項目の選択や決定ができます。

キー	動作
0	テンキーの動作の説明を読上げます。
1	現在表示している画面の説明を読上げます。
2	現在表示している機能で設定されている項目を読上げます。（拡大表示画面のコピーモード、ファクス/スキャンモードのみ）
3	現在流れている音声を中断します。
4	音声カーソルを左へ移動します。
5	音声カーソルの位置のキーを選びます。
6	音声カーソルを右へ移動します。
7	現在表示している機能で設定されている項目を読上げます。（拡大表示画面のコピーモード、ファクス/スキャンモードのみ）
8	直前に読上げた内容を、再度読上げます。
9	現在選ばれているキーを読上げます。
#	音量を1段階大きくします。 音声ガイドを使っているときは、#、*を押すと、いつでも音量を調節できます。
*	音量を1段階小さくします。 音声ガイドを使っているときは、#、*を押すと、いつでも音量を調節できます。

参考

- 表示中の画面で使えないキーを押した場合は、使えないことを知らせる音声が流れます。

音声ガイドを終了する

音声ガイドを押すと、音声ガイドを終了します。

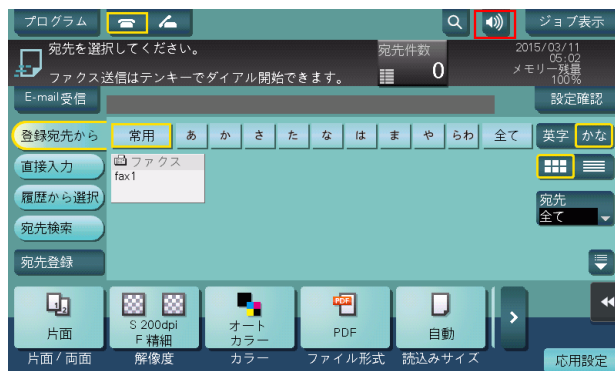
次のときにも、音声ガイドが終了します。

- 本機からログアウトしたとき
- オートリセット機能が作動したとき
- パワーセーブモードへ移行したとき
- 電源を OFF にしたとき

4.5 ファクス宛先を音声で読上げる

ファクス / スキャンモードの画面で音声アイコンをタップすると、ファクス番号を直接入力するときに、操作内容を読上げることができます。また、送信先を登録宛先や履歴から選択するときにも、操作内容を読上げます。ファクスの誤送信を防ぐために便利な機能です。

読上げを停止する場合は、もう一度音声アイコンをタップします。



5

PDF 処理機能を使う

5 PDF 処理機能を使う

5.1 PDF 処理機能について

PDF 形式でファイルを送信するときに、デジタル証明書を利用した暗号化や、プロパティの設定など、高いセキュリティを実現できます。また、長期保存を目的とした PDF ファイルの作成や、Web ブラウザーでの表示を最適化した PDF ファイル作成ができます。

PDF 処理機能を使用すると、次のことができます。

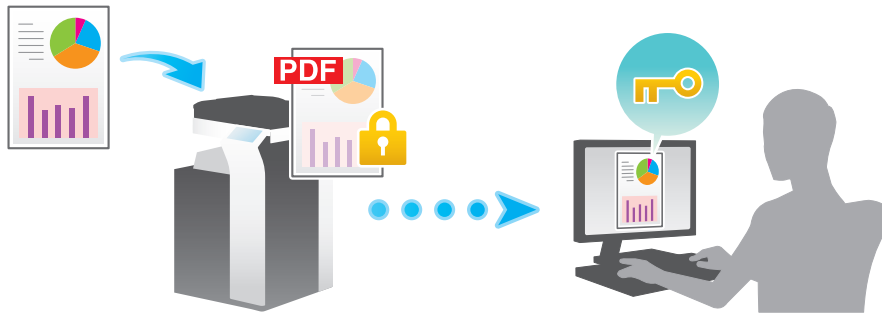
- PDF ファイルをデジタル証明書を使って暗号化できます。
- PDF ファイルにプロパティを設定できます。
- AES で暗号化した PDF ファイルに対応します。
- PDF/A に準拠した PDF を作成できます。
- Web ブラウザーでの表示に最適化した PDF を作成できます。

参考

- この機能を使うには、オプションの拡張メモリーに加えて、i-Option2 (PDF 高度暗号化) または i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ) が必要です。
- オプションの拡張メモリーと i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ) を有効にすると、デジタル証明書を利用した暗号化ができます。

5.2 PDF ファイルをデジタル証明書で暗号化する

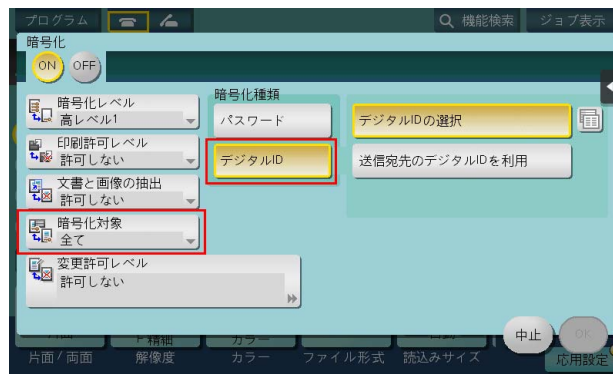
PDF 形式でファイルを送信するときに、ユーザーのデジタル証明書（公開鍵）を利用して PDF ファイルを暗号化します。暗号化した PDF ファイルは、ユーザーの持つ秘密鍵でしか復号できないため、第三者への情報漏洩を防止できます。



参考

- あらかじめ本機の E-mail 宛先に、暗号化に使うユーザーのデジタル証明書を登録する必要があります。証明書の登録は、**Web Connection** を使って行います。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

デジタル証明書で暗号化するときは、ファイル形式として [PDF] または [コンパクト PDF] を選び、[PDF 詳細設定] - [暗号化] で、次の設定をします。



設定	説明
[ON] / [OFF]	暗号化するときは、[ON] を選びます。
[暗号化種類]	デジタル証明書で暗号化するときは、[デジタル ID] を選びます。 [デジタル ID の選択] を選び、アイコンをタップすると、E-mail 宛先の一覧を表示します。一覧から、暗号化に使用するデジタル証明書が登録されている E-mail 宛先を選びます。[送信宛先のデジタル ID を利用] を選ぶと、PDF ファイルの送信先に登録されているデジタル証明書を使います。
[暗号化対象]	必要に応じて、暗号化する対象を選びます。 [メタ情報以外] を選ぶと、[PDF 文書のプロパティ] で設定したプロパティ情報を、暗号化の対象からはずします。 [PDF 文書のプロパティ] については、5-4 ページをごらんください。

参考

- [サーチャブル PDF] を同時に設定する場合、[サーチャブル PDF] で [回転補正] にチェックをつけると、デジタル証明書による暗号化ができません。初期設定では、[回転補正] にチェックがついているため、設定を変更する必要があります。

5.3 PDF ファイルのプロパティを設定する

PDF 形式でファイルを送信するときに、タイトルや作成者などのメタ情報を、PDF ファイルのプロパティとして追加します。暗号化するときには、プロパティを暗号化対象に含めるかどうかを選べます。

PDF ファイルのプロパティを設定するときは、ファイル形式として [PDF] または [コンパクト PDF] を選び、[PDF 詳細設定] - [PDF 文書のプロパティ] で、次の設定をします。



設定	説明
[タイトル]	[ファイル名をタイトルにする] のチェックをはずすと、PDF のタイトルを入力できません (半角 64 文字 / 全角 32 文字以内)。
[作成者]	PDF の作成者の名前を入力します (半角 64 文字 / 全角 32 文字以内)。本機でユーザー認証を導入している場合は、ユーザー名を作成者としてします。
[サブタイトル]	PDF のサブタイトルを入力します (半角 64 文字 / 全角 32 文字以内)。
[キーワード]	PDF のキーワードを入力します (半角 64 文字 / 全角 32 文字以内)。

5.4 PDF/A に準拠した PDF を作成する

PDF 形式でファイルを送信するときに、PDF/A に準拠した PDF を作成できます。

PDF/A は、文書の長期保存を目的とした、国際標準規格 (ISO19005) です。作成する PDF ファイルに対して、さまざまな要求事項や禁止事項を定めています。

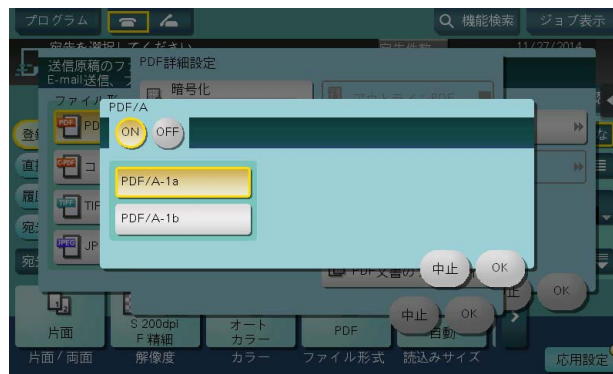
PDF/A には、次の 2 つの準拠レベルがあります。本機では、どちらの準拠レベルにも対応しています。

- PDF/A-1b：どのハードウェアやソフトウェアで PDF を表示しても同じ見栄えになることや、PDF にメタデータを埋込むことなどを要求されます。また、暗号化や LZW 圧縮、透明なテキストの使用などが禁止されます。
- PDF/A-1a：PDF/A 1-b の要求項目に加えて、文書の論理構造を記述するタグをつけることや、PDF ファイルへフォントを埋込むことが要求されます。

本機で PDF/A に準拠した PDF を作成すると、次の制限がかかります。

- PDF を暗号化できない
- PDF に電子署名を追加できない
- サーチャブル PDF を作成できない
- 複数の言語でスタンプ合成ができない

PDF/A に準拠した PDF を作成するときは、ファイル形式として [PDF] または [コンパクト PDF] を選び、[PDF 詳細設定] - [PDF/A] で、次の設定をします。



設定	説明
[ON] / [OFF]	PDF/A に準拠した PDF を作成するときは、[ON] を選びます。
[PDF/A-1a]	PDF/A-1a に準拠した PDF を作成します。
[PDF/A-1b]	PDF/A-1b に準拠した PDF を作成します。

🔗 関連設定 (管理者向け)

- PDF 形式でファイルを送信するときに、初期状態で PDF/A 準拠の PDF を作成するように設定できます。[設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [PDF 設定] - [PDF/A 初期設定] で、[PDF/A-1a] または [PDF/A-1b] を選びます (初期値: [設定しない])。

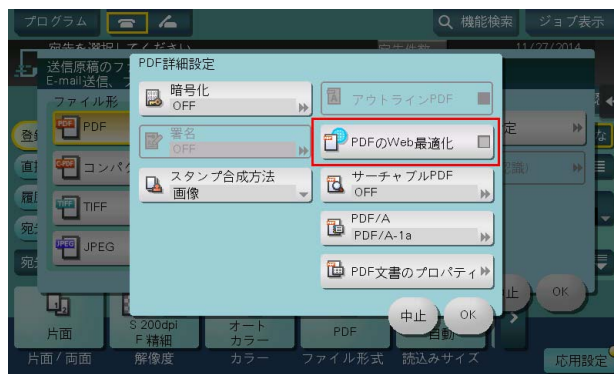
5.5 PDF の Web 表示を最適化する

PDF 形式でファイルを送信するときに、Web ブラウザーで最初のページが早く読み込まれるように、PDF ファイルを最適化します。

通常、Web ブラウザーが複数のページがある PDF ファイルを表示するときは、すべてのページのデータを読み込んでから、画面に表示します。そのため、ページ数が多い PDF では、画面に表示されるまで時間がかかることがあります。

本機で PDF ファイルを Web 表示に最適化すると、Web ブラウザーはすべての PDF のページを読み込む前に、最初のページだけを先に画面に表示できます。

Web 表示に最適化された PDF を作成するときは、ファイル形式として [PDF] または [コンパクト PDF] を選び、[PDF 詳細設定] で [PDF の Web 最適化] を選びます（初期値：[OFF]（チェックなし））。



参考

- お使いの Web ブラウザーによっては、Web 表示に最適化した PDF でも、すべてのページを読み込んでから画面に表示する場合があります。

関連設定（管理者向け）

- PDF 形式でファイルを送信するときに、初期状態で PDF の Web 表示を最適化するように設定できます。[設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [PDF 設定] - [PDF の Web 最適化初期設定] で、[有効] を選びます（初期値：[無効]）。

6

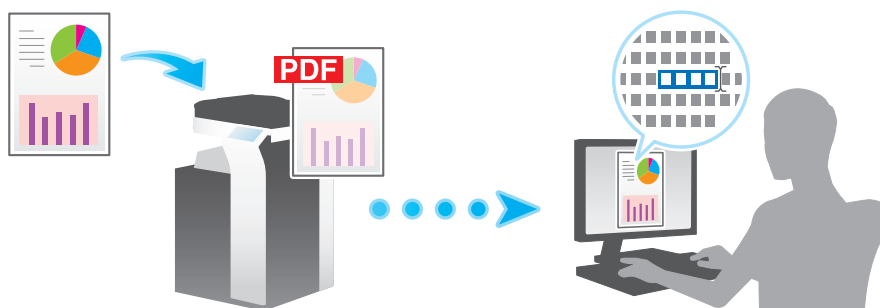
サーチャブル PDF 機能を使う

6 サーチャブル PDF 機能を使う

6.1 サーチャブル PDF 機能について

読込んだ原稿データを PDF に変換するときに、透明なテキストデータを貼付け、テキスト検索が可能な PDF(サーチャブル PDF)を作成できます。OCR の文字認識技術を利用して、スキャン画像から文字情報を自動的に作成します。

サーチャブル PDF 機能は、複数の言語に対応しています。サーチャブル PDF を作成するときに、原稿の言語を選ぶことで、OCR 処理を正しく行います。また、OCR 処理の精度を上げるために、ページの向きを自動的に補正します。



本機が認識できる原稿の文字サイズは、次のとおりです。

解像度が 200 dpi の場合

- 日本語：12 pt ～ 142 pt
- 欧米言語：9 pt ～ 142 pt
- アジア言語：20 pt ～ 142 pt

解像度が 300 dpi の場合

- 日本語：8 pt ～ 96 pt
- 欧米言語：6 pt ～ 96 pt
- アジア言語：12 pt ～ 96 pt

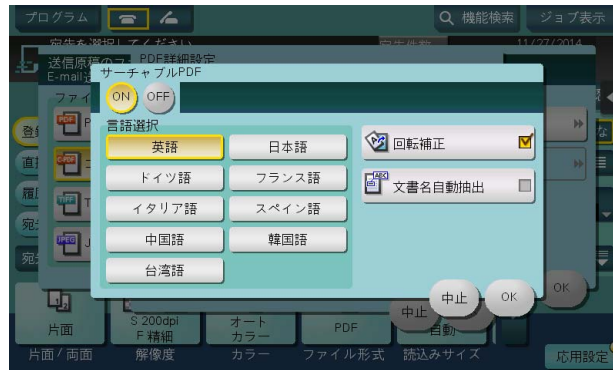
参考

- この機能を使うには、オプションの拡張メモリーに加えて、i-Option4 (サーチャブル PDF) または i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ) が必要です。
- 本機で受信したファクスをテキスト検索可能な PDF に変換するには、オプションの拡張メモリーと i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ) が必要です。
- 次の場合に、文字が正しく認識されない場合があります。
原稿に、複合機で対応していない文字が使われている場合
原稿の言語と異なる言語を選んだ場合
自動でページの向きを補正しないときに、原稿の向きと文字の向きが異なる場合

6.2 サーチャブル PDF を作成する

PDF 形式でファイルを送信するときに、OCR の文字認識技術を利用して、テキスト検索が可能な PDF (サーチャブル PDF) を作成します。

サーチャブル PDF を作成するときは、ファイル形式として [PDF] または [コンパクト PDF] を選び、[PDF 詳細設定] - [サーチャブル PDF] で、次の設定をします。



設定	説明
[ON] / [OFF]	サーチャブル PDF を作成するときは、[ON] を選びます。
[言語選択]	OCR 処理に使う言語を選びます。 正しく文字認識を行うには、原稿で使われている言語を選びます。
[回転補正]	OCR 処理により検出した文字の向きに合わせて、ページごとに自動で回転補正を行うときはチェックをつけます。 回転補正を行わないときは、指定した原稿の向きが文字の向きと異なる場合に、文字が正しく認識されません。
[文書名自動抽出]	OCR の文字認識結果から、文書の名前としてふさわしい文字列を自動的に抽出して、文書名として設定するときは、チェックをつけます。 文書名は、1 ページ目の文字認識の結果、日付、時刻、連番をもとにして、自動的に生成されます。

参考

- [ファイル形式] で [コンパクト PDF] を選ぶと、[PDF] を選んだときよりも、OCR 処理の速度が向上する場合があります。
- デジタル証明書 (デジタル ID) による暗号化を同時に設定する場合、[回転補正] を設定できません。
- PDF/A-1a に準拠した PDF と、サーチャブル PDF とを、同時に作成できません。
- [言語選択] で次の言語を選んだときは、縦書きと横書きを自動的に認識します。
[日本語]、[中国語]、[韓国語]、[台湾語]
- [言語選択] で次の言語を選んだときに、原稿の同じページに縦書きと横書きが混在している場合は、どちらか一方の向きで認識されます。
[中国語]、[韓国語]、[台湾語]

関連設定 (管理者向け)

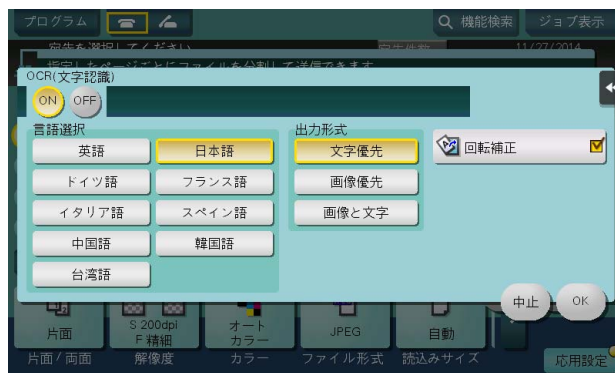
- PDF 形式でファイルを送信するときに、OCR 文字認識の結果から文書名にふさわしい文字列を、初期状態で抽出しないように設定できます。[設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [PDF 設定] - [サーチャブル PDF 設定] - [有効/無効] で、[無効] を選びます (初期値: [有効])。
- OCR の文字認識結果から、文書名としてふさわしい文字列を自動的に抽出するときの、文字列の長さの上限を設定できます。[設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [PDF 設定] - [サーチャブル PDF 設定] - [抽出文書名最大長設定] で、文字列最大長を設定します (最大 30 文字)。
- ファイルを送信する前に、自動的に設定された文書名を確認するように設定できます。[設定メニュー] - [管理者設定] - [環境設定] - [PDF 設定] - [サーチャブル PDF 設定] - [文書名確認画面設定] で、[表示する] を選びます (初期値: [表示しない])。

6.3 テキスト検索可能な OOXML ファイルを作成する

OOXML 形式 (PPTX 形式、DOCX 形式、XLSX 形式) でファイルを送信するときに、OCR の文字認識技術を利用して、テキスト検索が可能なファイルを作成します。

テキスト検索可能な DOCX 形式、または XLSX 形式のファイルを作成するには、オプションの拡張メモリと i-Option8 (ファイル形式拡張パッケージ) が必要です。

OOXML 形式のファイルを検索可能にするときは、ファイル形式として [PPTX]、[DOCX]、[XLSX] のいずれかを選び、[OCR (文字認識)] で、次の設定をします。



設定	説明
[ON] / [OFF]	OOXML ファイルを検索可能にするときは、[ON] を選びます。
[言語選択]	OCR 処理に使う言語を選びます。 正しく文字認識を行うには、原稿で使われている言語を選びます。
[回転補正]	OCR 処理により検出した文字の向きに合わせて、ページごとに自動で回転補正を行うときはチェックをつけます。 回転補正を行わないときは、指定した原稿の向きが文字の向きと異なる場合に、文字が正しく認識されません。
[出力形式]	ファイル形式として [DOCX] または [XLSX] を選んだ場合に設定できます。 OCR 処理により検出した文字を使用して、どのように OOXML ファイルを作成するかを選びます。
ファイル形式として [DOCX] を選んだ場合	<p>読んだ原稿を解析して、原稿のイラストなどを含む「画像データ」、OCR 処理により検知した「文字データ」、原稿の文字部分を画像として扱う「文字画像データ」を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [文字優先]: 「文字データ」と「画像データ」を合わせて、テキスト検索可能な DOCX ファイルを作成します。OCR 処理により検知した「文字データ」をそのまま表示するため、OCR 処理の結果によっては、読んだ原稿と同じ見栄えにならない場合があります。 ・ [画像優先]: 「画像データ」と「文字画像データ」のみを合わせて、DOCX ファイルを作成します。 ・ [画像と文字]: 「画像データ」、「文字データ」、「文字画像データ」をすべて合わせて、テキスト検索可能な DOCX ファイルを作成します。「文字データ」は「文字画像データ」と別に保存されるため、原稿の見栄えを保ちつつ、テキスト検索も行えます。
ファイル形式として [XLSX] を選んだ場合	<p>読んだ原稿から、原稿の「スキャン画像」と、OCR 処理により検知した「文字データ」を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [画像と文字]: 「スキャン画像」と「文字データ」を合わせて、テキスト検索可能な XLSX ファイルを作成します。原稿の見栄えを保ちつつ、テキスト検索も行えます。 ・ [文字のみ]: 「文字データ」のみを使って、テキスト検索可能な XLSX ファイルを作成します。OCR 処理により検知した「文字データ」をそのまま表示するため、OCR 処理の結果によっては、読んだ原稿と同じ見栄えにならない場合があります。

 参考

- デジタル証明書 (デジタル ID) による暗号化を同時に設定する場合、[回転補正] を設定できません。
- [言語選択] で次の言語を選んだときは、縦書きと横書きを自動的に認識します。
[日本語]、[中国語]、[韓国語]、[台湾語]
- [言語選択] で次の言語を選んだときに、原稿の同じページに縦書きと横書きが混在している場合は、どちらか一方の向きで認識されます。
[中国語]、[韓国語]、[台湾語]

6.4 OCR 処理の設定をする

サーチャブル PDF またはテキスト検索可能な OOXML を作成するときに、文字認識の精度と、処理の速度のどちらを優先させるかを選べます。

- 1 [設定メニュー] - [ユーザー設定] - [ファクス / スキャン設定] をタップします。
- 2 [OCR 動作設定] で、文字認識の精度と、処理の速度のどちらを優先させるかを選び、[OK] をタップします。
 - [精度優先]：文字認識の精度を優先します。また、原稿の傾きを自動的に補正します。
 - [速度優先]：処理の速度を優先します。原稿の傾きは補正しません。

7

My Panel Manager を使う

7 My Panel Manager を使う

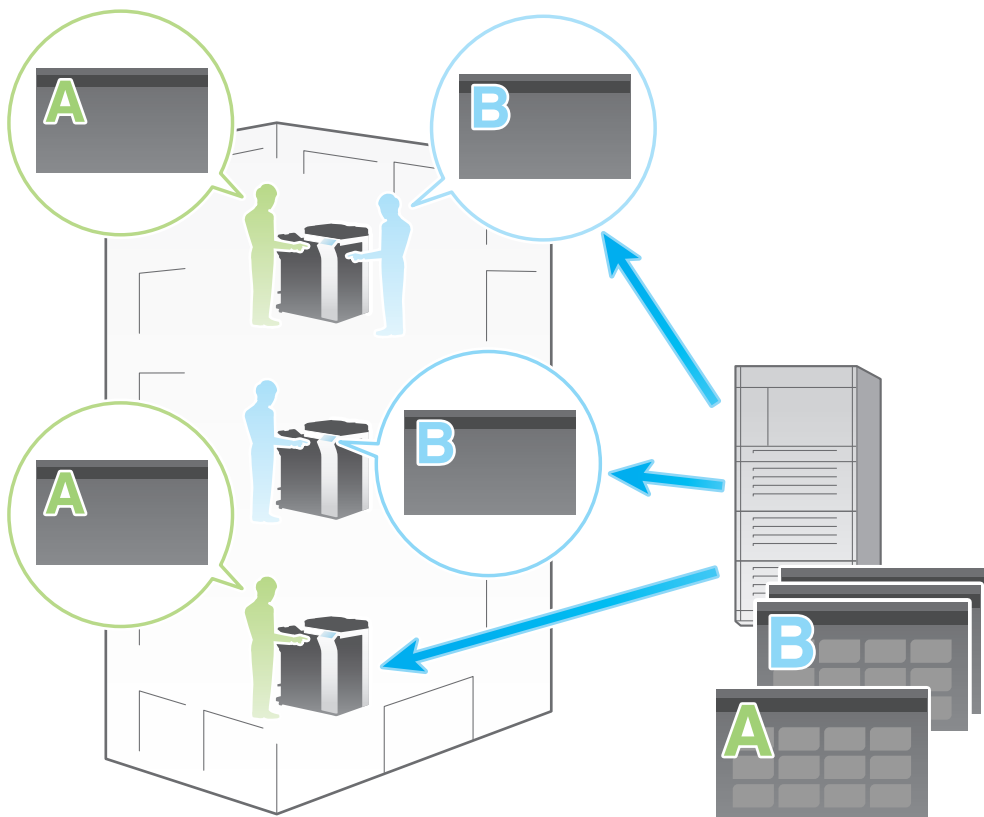
7.1 My Panel Manager でできること

お使いの環境に My Panel Manager を導入すると、ユーザーが複合機のタッチパネルやアドレス帳を自分専用カスタマイズして、複数の複合機で同じ作業環境を利用できるようになります。カスタマイズ情報は、サーバーで一元管理しているため、1箇所での変更がすべての複合機に反映され、複数の複合機で同じ操作性を実現できます。

My Panel Manager のおもな機能には、次の2つがあります。

- My パネル：ユーザーが自分専用カスタマイズしたタッチパネルの環境を持てる機能です。
- My アドレス：ユーザーがサーバー上に自分専用のアドレス帳を持てる機能です。

ここでは、本機で My パネルと My アドレスを使う方法について説明します。



参考

本機と My Panel Manager を連携するには、次の準備が必要です。

- ネットワーク上のサーバーに、Enterprise Suite と My Panel Manager を導入する
- My Panel Manager に必要なライセンス（アプリケーションライセンス、デバイスライセンス）を購入し、登録する
- My Panel Manager で、本機を管理対象に設定する

参照

My Panel Manager について詳しくは、My Panel Manager のマニュアルをごらんください。

7.2 My パネルを使う

7.2.1 My パネルでできること

My パネルは、ユーザーが自分専用カスタマイズしたタッチパネルの環境を持てる機能です。

よく使う機能を優先的に表示するように、設定を変更できます。表示言語をユーザーごとに変更することもできます。また、拡張機能のひとつである Web ブラウザーの使用環境もカスタマイズできます。

タッチパネルのカスタマイズは、本機のタッチパネルまたは My Panel Manager から行います。



Web ブラウザーとの連携について詳しくは、3-20 ページをごらんください。

7.2.2 My パネルの使い方

トップメニューを表示する

My パネル機能を使用すると、トップメニューをカスタマイズして使用できます。

トップメニューには、よく使う機能や、設定メモリー（コピープログラム、ファクス/スキャンプログラム）へのショートカットキーを、自由に配置できます。



トップメニューを表示するには、本機へログインしたあとの初期画面として、トップメニューを選びます。

My パネル使用時に注意すること

My パネル機能を使用するときは、次の点にご注意ください。

- はじめて My パネルを使用するときは、本機にログインしたあと、トップメニューが表示されます。
- My パネルは、ユーザー本人のみが登録、編集、削除できます。
- 本機の管理者は、ユーザーの My パネルを操作できません。
- 設定メモリー（コピープログラム、ファクス/スキャンプログラム）は、ログインしている複合機に登録されているもののみ、使用できます。
- ログインしている複合機の機能やオプションの装着状態によっては、My パネルで設定した操作環境を使用できない場合があります。
- サーバーとの接続状態によっては、My パネルを登録、編集、削除するときに、エラーが発生することがあります。エラーが発生したときは、ネットワークの接続を確認してください。

7.2.3 パネルの使用環境をカスタマイズする

My Panel Manager に登録されているユーザーで本機にログインすると、パネルの使用環境をカスタマイズできます。

- 1 [設定メニュー] - [My パネル設定] - [言語設定] または [単位系設定] で、パネルの使用環境を設定します。

設定	説明
[言語設定]	My パネルで使用する言語を、複合機で使用できる言語の中から選びます。
[単位系設定]	My パネルで使用する長さの単位を選びます。

7.2.4 各モードの画面をカスタマイズする

コピーモードのトップ画面の表示を変更する

My Panel Manager に登録されているユーザーで本機にログインすると、コピーモードの画面をカスタマイズできます。

- 1 [設定メニュー] - [My パネル設定] - [コピー設定] で、本機でコピーモードを使うときのトップ画面の表示を設定します。

設定	説明
[基本画面表示]	コピーモードのトップ画面の初期表示を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [基本設定]：本機の通常の画面表示です。 ・ [基本 (一括)]：基本設定画面の設定項目を 1 画面に表示します。一度に複数の設定ができ、便利です。
[簡単設定 1] / [簡単設定 2]	コピーモードのトップ画面に、コピー機能の設定値やコピープログラムのキーを配置します。
[用紙種類初期表示]	給紙トレイの用紙種類を選ぶときに、任意の用紙名と用紙種類を登録したカスタム用紙を優先的に表示するかどうかを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [標準用紙名]：本機にあらかじめ登録されている用紙を優先的に表示します。 ・ [ユーザー用紙名]：管理者が任意に登録したカスタム用紙を優先的に表示します。 管理者によって、カスタム用紙が登録されている場合に設定できます。

コピーモードの機能キーを変更する

My Panel Manager に登録されているユーザーで本機にログインすると、コピーモードのトップ画面と、ボックスモードの印刷設定画面に表示する機能キーを選べます。機能キーは、14 個まで登録できます。

- ✓ トップ画面に表示する機能キーを変更するには、あらかじめ機能キーの変更を許可する必要があります (初期値：[禁止])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 1 [設定メニュー] - [My パネル設定] - [機能キー設定 (コピー・印刷)] で、機能キーに割り当てる機能を選びます。

ファクス/スキャンモードのトップ画面の表示を変更する

My Panel Manager に登録されているユーザーで本機にログインすると、ファクス/スキャンモードの画面をカスタマイズできます。

- 1 [設定メニュー] - [My パネル設定] - [ファクス/スキャン設定] で、本機でファクス/スキャンモードを使うときのトップ画面の表示を設定します。

設定	説明
[基本画面表示]	ファクス/スキャンモードのトップ画面の初期表示を設定します。
[プログラム初期表示]	[プログラム] のトップページに表示するページを選びます。
[アドレス帳初期表示]	[登録宛先から] を表示したとき、最初に表示する検索文字と宛先の種類を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [検索文字] : 宛先の登録時に、インデックス検索用に選んだ文字を選びます。 ・ [宛先種類] : E-mail、ファクス、ボックスなど、表示する宛先の種類を選びます。
[宛先並び順の初期設定]	[登録宛先から] に表示する宛先の並び順を、登録番号順にするか、登録名順にするかを選びます。
[宛先表示方法の初期設定]	[登録宛先から] の表示を、ボタン表示にするか、リスト表示にするかを選びます。

ファクス/スキャンモードの機能キーを変更する

My Panel Manager に登録されているユーザーで本機にログインすると、ファクス/スキャンモードのトップ画面と、ボックスモードの送信設定画面、保存設定画面に表示する機能キーを選べます。機能キーは、7 個まで登録できます。

- ✓ トップ画面に表示する機能キーを変更するには、あらかじめ機能キーの変更を許可する必要があります(初期値: [禁止])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 1 [設定メニュー] - [My パネル設定] - [機能キー設定 (送信・保存)] で、機能キーに割り当てる機能を選びます。

ボックスモードのトップ画面の表示を変更する

My Panel Manager に登録されているユーザーで本機にログインすると、ボックスモードの画面をカスタマイズできます。

- 1 [設定メニュー] - [My パネル設定] - [ボックス設定] で、本機でボックスモードを使うときのトップ画面の表示を設定します。

設定	説明
[基本画面表示]	ボックスモードのトップ画面に表示するボックスの種類を選びます。
[ショートカットキー 1] / [ショートカットキー 2]	ボックスモードのトップ画面に、よく使うシステムボックスへのショートカットキーを、2 つまで配置します。

7.2.5 トップメニューをカスタマイズする

よく使う機能をトップメニューに配置する

My Panel Manager に登録されているユーザーで本機にログインすると、よく使う機能や、設定メモリー（コピープログラム、ファクス/スキャンプログラム）へのショートカットキーを、トップメニューに自由に配置できます。

トップメニューに配置するショートカットキーをトップメニューキーと呼びます。トップメニューキーは、25 個まで登録できます。

- 1 [設定メニュー] - [My パネル設定] - [トップメニュー設定] で、トップメニューキーに割り当てる機能を選びます。

設定	説明
[機能]	[コピー]、[ファクス/スキャン]、[ファクス]、[ボックス]、[Web ブラウザー]、[APP] の各機能へのショートカットキーを登録します。 Web ブラウザー機能を登録するには、本機で Web ブラウザー機能を有効にする必要があります。
[コピー機能設定]	次のコピー機能設定へのショートカットキーを登録します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [カラーモード] ・ [用紙設定] ・ [倍率設定] ・ [両面/ページ集約] ・ [仕上り] ・ [濃度] ・ [原稿画質]
[ファクス/スキャン機能設定]	次のファクス/スキャン機能設定へのショートカットキーを登録します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [片面/両面] ・ [解像度] ・ [カラーモード] ・ [ファイル形式] ・ [読み込みサイズ] ・ [文書名/件名/他]
[コピー設定メモリー]	コピープログラムへのショートカットキーを登録します。 複合機にコピープログラムが登録されている場合に設定できます。
[ファクス/スキャン設定メモリー]	ファクス/スキャンプログラムへのショートカットキーを登録します。 複合機にファクス/スキャンプログラムが登録されている場合に設定できます。
[システムボックス]	次のシステムボックスへのショートカットキーを登録します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [セキュリティ文書] ・ [強制メモリー受信] ・ [認証 & プリント] ・ [掲示板] ・ [ポーリング送信] ・ [ファイリングナンバー] ・ [再送信] ・ [パスワード暗号化 PDF] ・ [外部メモリー]

参考

- トップメニューキーにコピープログラムまたはファクス/スキャンプログラムを割り当てた場合は、[トップメニュー設定] 画面で [アイコン] をタップすると、トップメニューに表示するアイコンを選べます。
- 複合機に OpenAPI アプリケーションを登録している場合は、トップメニューに登録アプリケーションや登録アプリケーショングループのキーを配置できます。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

My パネルを使うときの初期画面を変更する

My Panel Manager に登録されているユーザーで本機にログインすると、本機へログインしたあとに表示される画面を選べます。

- 1 [設定メニュー] - [My パネル設定] - [初期画面設定] で、ログイン後に表示する初期画面を選びます。



参考

- [Web ブラウザー] は、本機で Web ブラウザー機能を有効にしているときに選べます。

7.3 My アドレスを使う

7.3.1 My アドレスについて

My アドレスでできること

My アドレスは、ユーザーがサーバー上に自分専用のアドレス帳を持てる機能です。

自分が使う送信先だけを登録しておけるので、送信先の選択が簡単になります。間違った宛先に送信してしまうミスも防ぐことができます。アドレス帳はサーバーで共有しているため、複合機ごとに送信先を登録する必要はありません。

アドレスの設定は、本機のタッチパネルまたは My Panel Manager から行います。

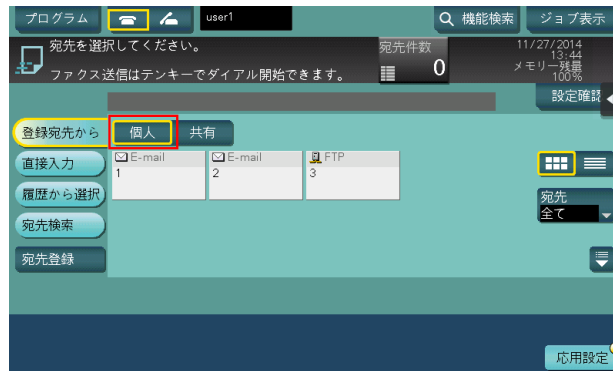
アドレスの分類

My アドレス機能を使うと、次の 2 種類のアドレスを使い分けることができます。

種類	説明
My アドレス	自分専用のアドレスです。登録情報はサーバーで管理されます。 <ul style="list-style-type: none"> 短縮宛先とグループ宛先を登録できます。 プログラム宛先は登録できません。 ユーザー本人のみが登録、編集、削除できます。 My アドレス機能を使用できる複合機であれば、どの複合機からでも利用できます。 複合機にログインした時点で、サーバーからアドレスを取得します。
共有アドレス	ログインした複合機に登録されているアドレスです。 <ul style="list-style-type: none"> 短縮宛先、グループ宛先、プログラム宛先を登録できます。 ユーザー以外の人でも登録、編集、削除できます。 ログインした複合機でだけ使えます。

7.3.2 My アドレスの使い方

[登録宛先から] で [個人] を選ぶと、My アドレスに登録されている宛先を選べます。



参考

- My アドレスは、検索文字で宛先を検索できません。
- ボックス宛先は、宛先を登録した複合機でだけ利用できます。
- ログインしている複合機の機能やオプションの装着状態によっては、指定した宛先に送信できない場合があります。
- サーバーとの接続状態によっては、My アドレスを変更するときに書き込みエラーが発生することがあります。エラーが発生したときは、ネットワークの接続を確認してください。

7.3.3 My アドレスを登録する

短縮宛先（個人）を登録する

My アドレスには、短縮宛先を 100 件まで登録できます。

- 1 My Panel Manager に登録されているユーザーで、本機にログインします。
- 2 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [短縮宛先（個人）] をタップします。
- 3 [新規登録] をタップします。
- 4 登録する宛先の種類を選び、宛先情報を入力します。

グループ宛先を登録する

My アドレスには、グループ宛先を最大 10 グループ（1 グループあたり短縮宛先を最大 100 件まで）登録できます。

- ✓ グループ宛先を登録するには、あらかじめ短縮宛先の登録が必要です。
- 1 My Panel Manager に登録されているユーザーで、本機にログインします。
 - 2 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [グループ宛先] をタップします。
 - 3 [個人] をタップし、[新規登録] をタップします。
 - 4 [登録先] で [個人グループ] が選ばれていることを確認して、必要な項目を入力します。
→ [宛先] をタップすると、My アドレスに登録されている宛先の一覧が表示されます。一覧から、グループ宛先に含めたい宛先を選びます。

共有アドレスから My アドレスへコピーする

本機の共有アドレスに登録されている宛先を、My アドレスへコピーできます。

- 1 My Panel Manager に登録されているユーザーで、本機にログインします。
- 2 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [短縮宛先（共有）] をタップします。
- 3 My アドレスへコピーしたい宛先の種類を選びます。
登録宛先の一覧が表示されます。
- 4 My アドレスへコピーしたい宛先を選び、[個人宛先へコピー] をタップします。
- 5 確認画面で [はい] を選び、[OK] をタップします。
選んだ宛先が、My アドレスへコピーされます。

参考

- グループ宛先は、My アドレスと共有アドレスとの間でコピーできません。

My アドレスから共有アドレスへコピーする

My アドレスに登録されている宛先を、本機の共有アドレスへコピーできます。

- 1 My Panel Manager に登録されているユーザーで、本機にログインします。
- 2 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [短縮宛先 (個人)] をタップします。
短縮宛先 (個人) の一覧が表示されます。
- 3 本機の共有アドレスへコピーしたい宛先を選び、[共有宛先へコピー] をタップします。
- 4 確認画面で [はい] を選び、[OK] をタップします。
選んだ宛先が、共有アドレスへコピーされます。



参考

- グループ宛先は、My アドレスと共有アドレスとの間でコピーできません。

お問い合わせ窓口

■ 製品の仕様・取扱方法やアフターサービスに関するご相談

インフォメーションセンター

0120-610-917

※電話番号をお確かめのうえ、お間違えにならないようお願いいたします。

●受付時間 月～土曜日（日・祝日はお休みさせていただきます。）
平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00

■ 消耗品のご注文・お問い合わせ

消耗品受付窓口

0120-176-109

※電話番号をお確かめのうえ、お間違えにならないようお願いいたします。

●受付時間 月～土曜日（日・祝日はお休みさせていただきます。）
平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00

ホームページ <http://www.muratec.jp/ce/>

●この取扱説明書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。